

第72回卒業証書授与式 校長式辞

令和 2年 3月11日

校長 浅海 純一

ただいま、卒業証書を授与いたしました321名の皆さん、卒業おめでとございます。

世界を巻き込んだ感染症対策の中での、卒業式となりました。本日は、このような形で、皆さんの晴れの門出を、お祝いしなくてはならないこと、大変心苦しく申し訳ない気持ちでいっぱいです。

世界中が疲れています。日本中が不安を感じています。こうした時だからこそ私たちは、9年前の震災から立ち上がったあの時と同じように、心を一つにして支え合うことの大切さを、肝に銘じなくてはなりません。

本日、熊谷女子高校を巣立っていく皆さんには、心を込めて式辞を述べたいと思います。

皆さんはこれまで、小・中・高校と長きにわたり、学校生活を送ってきました。朝、登校し、ホームルームで出席をとり、授業を受ける。放課後になると、掃除をし、部活に行く。そんな生活も、いよいよ今日で終わりです。今後は、皆さん一人一人の選択に基づき、自由度が高いけれども、自己責任が問われる新たな生活が始まります。

さて、これから皆さんが向かう社会は、様々な課題が一つの国では解決できないグローバル化の時代です。そんな時代であるからこそ、自分と違う考えや異文化を許容しつつも、自分らしさを常に考え自らを成長させていかななくてはなりません。

こうした中、今後、皆さんが人生を送る上で、本校卒業生の活躍は、何と言っても心の支えになります。先日、OGが学校を訪ねて来てくれました。1995年に卒業され、本校では剣道部に所属していた方です。彼女は、都内私立大学の教育学部に進まれ、その後、教育関係の企業に就職をされました。

元々、海外を視野に入れた仕事に興味があった彼女は、数年後、職を辞しアメリカに留学しました。

この留学時代、文化や習慣の違いを痛感しつつも、日本人としてのアイデンティティを再認識したそうです。中でも、日本古来の武道の素晴らしさ、自らが剣道に打ち込んできたことに、改めて誇りを感じるようになったといいます。

現在はパリに住まれ、日本人が主宰している道場に通い、剣道を広める活動をされています。

また、各国の要人が宿泊するパリ有数のホテルで、英語・フランス語・日本語が駆使できる貴重な人材として活躍されています。

彼女は、高校時代を振り返り、こう話してくれました。熊女には、色々な地域から、色々な考えを持っている人たちが集まって来て、そういう人たちと言いたいことを何でも言い合える環境が、私を成長させてく

れた。10代の多感な時期を、異性のいない環境で、勉強や、部活、行事に打ち込めたのは、貴重な経験だった。

皆さんへのメッセージもいただきました。「これからも、何でも言い合える熊女の仲間を大切に欲しい。そして、自分を見つめ直すため、人間の多様性をより理解するために、積極的に海外に出て欲しい」。

これから未来に羽ばたく皆さんには、彼女のように、日本の伝統文化に造詣を深めながら、様々な多様性に対するリスペクトを忘れず、自らのアイデンティティを確立させ、世界と日本の架け橋となる人材になって欲しいと思います。さらに近年、日本では、地方創生や地域社会の復活が求められています。こうした中、世界が一つになっている現状を考えると、**Think Globally Act Locally**。つまり、「地球規模で物事を考え、地域で活躍できる」人材も必要となってきます。

そう遠くない将来、世界各地で活躍する皆さんの話題が聞こえてきたり、**Think Globally Act Locally** の実践者として、日本各地で、その活性化に奔走している皆さんの姿に出会えることを期待しています。もちろん、OGの活躍として、東京オリンピックに出場が決定した陸上競歩の岡田久美子さん、そして何より、この会場に居る女子7年制ラグビーの代表候補である香川さんにも、大きな期待をしたいと思います。

ここで保護者の皆様に申し上げます。本日はお子様のご卒業、誠にありがとうございます。

本日、皆さんとともに、お子様の門出をお祝い出来ないことは、痛恨の極みであります。

これまでの本校教育活動へのご理解とご協力に、深く感謝申し上げますとともに、今後も、変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

それでは、卒業生一人一人がそれぞれの人生において、最高の花を咲かせてくれることを心から願い式辞といたします。